

【1】-A (10点満点)

【例1】

従来、民主主義とその歴史の考察対象が欧米に偏っていたのは、「デモクラシー」がギリシャ語由来だからだ。全世界での民主主義の発展を正しく理解するには、用語にとらわれず、その実践の程度を見ることが重要だ。(99字)

【例2】

民主主義の歴史は、ギリシャ語由来の「民主主義」という用語に基づいて研究されてきたために、西洋中心であり全体像を表していない。特定の用語でなく、民主主義の実践度合いにこそ着目すべきである。(93字)

| | |
|---------------|---|
| 必須項目 (10点) | <p>① 「西洋文明」だけに焦点を当てた民主主義の歴史は民主主義のための闘いと達成という人類の物語を見落としている」(4点)</p> <p>Mostly, scholars of democracy and its history have been content to produce a familiar catalogue of events that emphasise the key moments of Western civilisation: ... miss the broader human story of the struggle for and achievement of democracy.</p> <p>▶ 「西洋文明」(Western civilisation)に相当するものがないものは2点減点。 ○「西洋/欧米/西欧/ヨーロッパ」は「西洋文明」と認める。</p> <p>▶ 「民主主義」(democracy)に相当するものがないものは2点減点。 ○「民主制/民主政治[政体]/デモクラシー」などは「民主主義」と認める。 × democracy をすべて英語表記にしているものは「民主主義」と認めない。</p> <p>② 「民主主義を実践してきた人々の大多数はギリシャ語由来の democracy という言葉を使わなかった。民主主義がどこから来たのかという問いに答えるには、それを表す特定の用語の使用よりもむしろ民主主義実践の程度に焦点を当てることが重要である」(6点)</p> <p>... the vast majority of people who have practised or lived under or fought for democracy have not used the Greek-derived word 'democracy' to describe their government.</p> <p>In answering the question of where democracy might come from, it is important to focus on the degree and extent of practice rather than the employment of particular terms to describe it.</p> <p>▶ 「ギリシャ語」(Greek)に相当するものがないものは2点減点。 ×「ギリシャ」だけでは「ギリシャ語」と認めない。</p> <p>▶ 「言葉/単語/語」(word)に相当するものがないものは2点減点。 ○「用語」(termsに相当)は「言葉」と認める。</p> <p>▶ 「実践の程度」(the degree and extent of practice)に相当するものがないものは2点減点。 ○「(民主主義を) 実際に行う」に相当する内容は「実践」と認める。 ○「democracy という言葉よりも民主主義の実践が重要」というニュアンスがあればよい。</p> <p>※必須項目が含まれていても、主旨が違うものには得点を与えない。</p> |
|---------------|---|

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

Everything can have a price, even if it seems not to. Take, for example, beautiful scenery. There should be no price for a landscape in the first place, but many tourist sites charge for enjoying the scenery. Under capitalism, finding value and putting a price on everything plays a significant role in the economy. Thus, the great things that were originally free, such as spectacular scenery and sometimes even human relationships, have been increasingly measured in terms of money. (79 語)

(すべてのものは、たとえそうでないように見えても値段がつく可能性がある。美しい風景を例に挙げよう。そもそも景観に値段はないはずだが、多くの観光地が景色を楽しむための料金を課している。資本主義の下では、あらゆるものに価値を見いだして値段をつけることが経済に重要な役割を果たす。そのため、もともと無料だった素晴らしいもの、例えば絶景や時には人間関係までもが、次第にお金で測られるようになっていく)

【例2】

One of the best things in life would be “happiness.” When I look back on my happiest days, I think of my childhood, filled with love from my family, or the days I spent with my best friends in junior high school. In other words, happiness seems to come from good relationships with others. Money can help us be happy, but really wonderful relationships and the greatest happiness they bring never come with price tags. (75 語)

(人生で最高のものの1つは「幸せ」だろう。自分の最高に幸せな日々を振り返ってみると、家族の愛に満たされた幼少期や、中学時代に親友と過ごした日々が思い浮かぶ。つまり、幸せは他者との良好な関係性から生じるようだ。お金は私たちが幸せになるのに役立つことはあるが、本当に素晴らしい人間関係やそれがもたらす最高の幸せには決して値札はついていないのだ)

【例3】

In order to obtain something, there is always some price to pay. The price is not necessarily a monetary one. For example, freedom and peace, the foundations of a happy life, are not purchased, but they are not obtained for free either. Many of our predecessors – Lincoln, Gandhi, Mandela and others – fought for these things, sometimes at the cost of their lives. We also have to pay the price of our efforts to have good things in life. (78 語)

(何かを手に入れるためには、必ず何らかの対価を支払う必要がある。その対価は必ずしも金銭的なものではない。例えば、幸せに生きる土台である自由や平和は、購入するものではないが、ただで手に入るものでもない。リンカーン、ガンジー、マンデラなど、多くの先人がこれらのために、時には命を代償にして闘った。私たちがまた人生で素晴らしいものを手に入れるために努力するという対価を払わねばならない)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60～80語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 “Everything has its price.” と “The best things in life are free.” に関する。(8点)

- ① 一方について無関係、または明らかに解釈を誤っているものは各4点減点。
 - 1) “Everything has its price.” 「あらゆるものに値段[価格]/対価[代償]がある」
これに関する内容が一切ないものや、明らかに解釈を誤っているものは**4点減点**。
 - 2) “The best things in life are free.” 「人生で最良のものは無料である/自由に手に入る」
これに関する内容が一切ないものや、明らかに解釈を誤っているものは**4点減点**。
☞ 主語 (best things) は複数なので、この文を「人生で最高のものは自由 (freedom) だ」と解釈して論じているものは、解釈の誤りとして-4点。
- ② “Everything has its price.” と “The best things in life are free.” のどちらにも無関係なことを書いているものは [ポイント2] の得点も与えず **12点減点**。

ポイント2 「これらの言葉についてどう思うか」(4点)

- * 2つの表現の説明だけで自分の考え [どう思うか] を述べていないものは**4点減点**。
- * 論旨が一貫していないものは**4点減点**。

【2】－B (ア 6点 イ 6点 計12点)

(先に問題を見て下さい)

(ア)

〔例1〕 If [if] we cannot even wash a beaker in the right way, there is no way we can do great research.

(私たちはビーカーを正しい方法で洗うことさえできないのであれば、立派な研究ができるわけがない)

〔例2〕 If [if] you couldn't wash a single beaker properly, you would never be able to conduct excellent research.

(たった1つのビーカーを適切に洗えなければ、優れた研究を行うことは決してできないだろう)

〔例3〕 How [how] could one carry out solid research when one could not even clean a single beaker thoroughly?

(たった1つのビーカーを完全にきれいにするこ とさえできないなら、どうしてしっかりとした研 究を成し遂げることなどできようか)

(イ)

〔例1〕 I can't say enough about how much these detailed lessons have helped my research since then.

(これらの詳細な教えが、それ以降私の研究をどれほど助けてくれたかについては言い尽くせない)

〔例2〕 I am sure that this step-by-step training helped me a great deal in my research from then on.

(このような段階的な訓練が、その後の私の研究 において大いに助けとなったと確信している)

〔例3〕 There is no doubt that his specific instructions have been a great help to me in my research thereafter.

(彼の細やかな指導が、その後の私の研究におい て大いに助けとなったことに疑いの余地はない)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の①～⑥の区分を目安に得点(各2点)を配分する。

(ア) (6点)

■ビーカー一つ満足に洗え／なくては、／立派な研究も出来るはずがありません。

①「(洗え) なくては」(2点)

*直説法, 仮定法過去のどちらも認める。

②「ビーカー一つ満足に洗え (なくては)」(2点)

*「ビーカー一つ」は「ビーカーさ^え／ビーカーを洗^うことさ^え」と解釈してもよい。

*「一つ」に相当する強調表現が何もないものは**1点減点**。

*「満足に」の訳抜けは**1点減点**。

③「立派な研究も出来るはずがありません」(2点)

(イ) (6点)

■このような細かいしつけが、／どれ程それからの私の研究を助けてくれたか／しれないのです。

④「しれないのです」(2点)

⑤「このような細かいしつけが」(2点)

*「細かい」の訳抜けは**1点減点**。

⑥「どれ程それからの私の研究を助けてくれたか」(2点)

*「それからの」の訳抜けは**1点減点**。

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分> 下線部(ア)を和訳せよ。

in practice names take on a meaning by association with the generation and class of people who bear them.

<例 1>

現実には名前は、その名を持つ人々の世代や階級との連想によって、意味を帯びることになる。

<例 2>

実際のところ、名前は名づけられた人々の世代や階層との関連性によって意味を持つようになる。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|---|----|---|
| in practice 実際には | 1点 | ×in practice に「習慣で／練習で」は不可。 |
| names take on a meaning 名前は（一つの）意味を帯びる | 1点 | ×names take の SV 関係がわかっていないものは不可。 ×names は「名前、名」以外不可。 ×meaning は「意味」以外不可。 |
| by association with the generation and class 世代と階級との連想により | 1点 | ×association に「交際／連合」は不可。 ×generation に「ジェネレーション」は不可。 ×class に「クラス／組／等級」は不可。 |
| ～ of people who bear them それらを持つ人々の～ | 1点 | ×who が people を先行詞とする主格の関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ×bear に「生む／耐える」は不可。 ×them を names 以外ととっているものは不可。 |

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題>

下線部（イ）について、その内容をわかりやすく 50 字以内の日本語で説明せよ。

their unique choice of a name was also the unique choice of many of their neighbors

（直訳：彼らのユニークな名前の選択は、近隣の親たちの多くのユニークな選択でもあった）

<例 1>

ある名前がユニークだと思って子供につけても、周りの親たちも同じように考えるから、かぶってしまう。（48 字）

<例 2>

独創的に選んだつもりで子供につけた名を、地域の親たちも独創的と考えて自分の子供につけていた。（46 字）

① 51 字以上は 0 点。

② 次の（1）（2）が必須項目。

- 「ユニークだと思った名前がそうでない」という趣旨から、完全にずれているものは **0 点（-4 点）**。
およその趣旨が正しいものについて、下記（1）（2）の部分的な不備について減点。

（1）「自分の子供の名前はユニークだと思う」（2 点）

- ・ **their unique choice of a name**（彼らのユニークな名前の選択）の説明がない／不適切／不十分なものは **2 点減点**。（0 点か 2 点で採点）
- × 「名前」（name）に相当するものがないものは不可（-2 点）。
- × 「ユニーク／独創的」（unique）に相当するものがないものは不可（-2 点）。
- ※ 「他に類がない」、「唯一（無二）の」、「固有の」など可。

（2）「近所の人と同じ名前を子供につけている」（2 点）

- ・ **was also the unique choice of many of their neighbors**（近隣の親たちの多くのユニークな選択でもあった）の説明がない／不適切／不十分なものは **2 点減点**。（0 点か 2 点で採点）
- × 「近所の人／他の親」（neighbors）に相当するものがないものは不可（-2 点）。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分> 下線部(ウ)を和訳せよ。

At the other end, people are seeing their own names, and the names of their friends and relations, becoming old-fashioned more quickly.

<例1>

その対極には、自分自身の名や友人・親族の名がどんどん古風になっていくと感じている人たちがいる。

<例2>

その一方で、人々は自分の名前や、友人・血縁者の名前が以前より急速に古臭いものになっていくのに気づいている。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|---|----|---|
| At the other end その対極に／その一方／逆に／反対に | 1点 | ×endに「終わり／端」は不可。 |
| people are seeing 人々は～が…のを見ている | 1点 | ×peopleの訳抜けは不可。 ×現在進行形だとわかっていないものは不可。 ×see O Cの構文がわかっていないものは不可。(becoming old-fashioned more quicklyの項目も含めて2点減点) ○are seeingは「理解している／分かっている／感じている／気づいている／気づき始めている」なども可。 |
| their own names, and the names of their friends and relations 彼ら自身の名前、および彼らの友人や親族の名前 | 1点 | ×この部分が seeingの目的語だとわかっていないものは不可。 ×their ownの訳抜け(誰の名前か分からないもの)は不可。 |
| becoming old-fashioned more quickly ～がより急速に時代遅れになっていく | 1点 | ×see O Cの構文がわかっていないものは不可。(people are seeingの項目も含めて2点減点) |

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部 (A) を和訳せよ。

I would be next to become incomprehensible and unattractive.

<例1>

次は私が、理解できない・魅力がないと言われる番だろう。

<例2>

次は私が、彼にとって理解不能で魅力がなくなるのだろう。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|---|----|---|
| I would be next to become ~ 次は私が～になるだろう | 2点 | ×next「次、今度」の訳抜けは不可。 ×next toに「ほとんど」は不可。 ×「～になりかけていた／なるところだった」は不可。 |
| incomprehensible and unattractive 理解不能で魅力がない | 2点 | ×andがincomprehensibleとunattractiveを結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 |

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳，訳漏れ，英語のまま，不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部 (B) はどういう人々のことを言っているのか、30 字以内の日本語で説明せよ。句読点も字数に含める。
academic transplants

<例1>

職を求めて故郷から離れた大学で教えている (女性) 教員たち。(25/27 字)

<例2>

生まれ育ったところ以外で働いている大学関係者。(23 字)

- ① 31 字以上は 0 点。
- ② 次の (1) (2) が必須項目。

■全体の趣旨が大きく誤っているものは**0点(-4点)**。

およその趣旨が正しいものについて、下記 (1) (2) の部分的な不備について減点。

(1) 「大学 (の)」

- ・ academic に相当するもの (これがないものは**2点減点**)
 - × 「アカデミック」は「大学 (の)」と認めない。
 - × 「学校/教育/教師」だけでは「大学 (の)」と認めない。

(2) 「移住者」

- ・ transplants に相当するもの (これがないものは**2点減点**)
 - 「根無し草/流れ者/離れた土地で [遠くで] 働く (人)」などは「移住 (者)」と認める。
 - × 「移植/移民」は「移住」と認めない。
 - × 「兵士のような人」は「移住者」と認めない。

【5】－(C) (3点満点)

<問題>

下線部 (C) を **them** の内容を明らかにして和訳せよ。

It's hard for them to part company.

<例1>

女と家とは離れがたいのよ。

<例2>

女性が家と別れる [家から離れる] のは難しい。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|--------------------------------------|----|--|
| It's hard for ~ to ... ～が…するのは難しい | 1点 | ○形式主語と不定詞の構文だとわかっているものは意識も可。 * 「女性が家と別れるのは難しい」など可。 |
| them 女性と家 | 1点 | ×them を women and their houses 以外ととっているものは不可。 ×「女性」または「家」の片方しかないものは不可。 |
| part company | 1点 | ×part を動詞以外ととっているものは不可。 ×part company に「仲間と別れる／仲間割れする／絶交する」など 「人と物 (女性と家)」の関係として不自然なもの (人同士にしか使わない表現) は不可。 |

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。